

第 41 回ユネスコ総会の結果（科学分野）

1. 開催日時等

日 程：令和 3 年 11 月 9 日（火）～11 月 24 日（水）

場 所：ユネスコ本部（パリ）

2. 科学関連の委員会の日程

・自然科学委員会（SC） 11 月 15 日（月）～16 日（火）

・人文・社会科学委員会（SHS） 11 月 15 日（月）～17 日（水）

3. 主要議題等の結果概要

①次期中期戦略案（41C/4）の検討と承認（自然科学）【議題 4.1】

○議題概要：

2022 年～2029 年の次期中期戦略について検討し、承認するもの。

○結果：

決議案は執行委員会等で調整された案文にて異議なく採択された。

③生物圏保存地域（Biosphere Reserves: BR）国際デー【SC 議題 5.13】

○議題概要：

毎年 11 月 3 日を生物圏保存地域国際デーとする提案（我が国は共同提案国の一つ）を検討し、承認するもの。

○全体の議論：

38 か国が発言。全ての国が、本国際デーを支持するとともに、今年 50 周年を迎える MAB 計画の役割や持続可能な開発・保全への BR の貢献を強調、国際デーが持続可能な開発、生物多様性、気候変動への意識啓発に貢献するものとなる旨発言。提案国であるスペイン及びウルグアイから感謝の意が表明された。

○結果：

異議なく採択された。

④国際ジオダイバーシティ（Geodiversity）デー【SC 議題 5.14】

○議題概要：

毎年 10 月 6 日を国際ジオダイバーシティデーとする提案（我が国は共同提案国の一つ）を検討し、承認するもの。

○全体の議論：

時間の都合上、5 か国目の発言までで終了したが、持続可能性、気候変動、自然災害といった観点におけるジオパークを通じた理解向上や国際協力の促進の重要性が発言された。

○結果：

異議なく採択された。

⑤オープンサイエンスに関する勧告【SC 議題 8.1】

○議題概要：

科学技術イノベーション（STI）における格差を縮小するため、オープンサイエ

ンスに関する国際協力を強化することを目的に標準規範としてまとめられた「オープンサイエンスに関する勧告」の採択について議論。

○全体の議論：

49 か国及び3 オブザーバーが発言。勧告案を策定するにあたり、専門家による諮問委員会での検討、加盟国への照会、地域間での意見交換を経て、政府間委員会においてまとめられていることから、議論としては、知的所有権（主に特許）や国際協力、勧告のフォローアップメカニズムに留意すべきとのコメントがあったが、全ての発言が当該勧告の採択を支持するものであった。我が国からも、本勧告策定に際し、我が国の専門家が諮問委員会メンバーとして重要な役割を果たすなど積極的に貢献してきたことから、勧告採択を歓迎するとともに、第6期科学技術・イノベーション基本計画などの国家戦略にオープンサイエンスの推進を位置付けている旨を発言。

○結果：

決議文に、ユネスコに当該分野の国際協力への支援強化を求める文言の追加が行われた上で、勧告本文については修正なく採択。

⑥AI の倫理に関する勧告【SHS 議題 8.2】

○議題概要：

人類全てに利益をもたらす、持続可能な開発と平和を促進する方法でAIの開発と利用を導き、また加盟国がAI技術に起因する変化に直面した際の対応準備を支援する目的で、価値と原則、具体的な政策分野等を定めた標準規範としてまとめられた「AIの倫理に関する勧告」の採択について議論。

○全体の議論：

68 か国が発言。勧告案を策定するにあたり、専門家による諮問委員会での検討、加盟国への照会、地域間での意見交換を経て、政府間委員会（100時間超の審議）においてまとめられていることから、ほぼ全ての発言が本勧告の適切なタイミングでの策定を歓迎し、本勧告が人間の尊厳やジェンダー平等及び人権保護に貢献するとともにSDGsを推進し、先進国と途上国間のデジタルデバイドを埋めるツールとなるといった肯定的な意見が多数を占めた。またAIの急速な発展に鑑み、勧告の速やかな実施、他の同様の規範や国際機関との連携、継続的なアフリカ支援を求める声もあった。我が国からも、AIの適切な開発と社会実装が求められる中で、我が国がこれまで国際的枠組みで議論をリードしてきたこと、教育や科学を所掌する国連専門機関であり先進国のみならず途上国が多く加盟するユネスコで同勧告を策定する意義、策定プロセスにおける我が国の知的・財政的貢献、実行フェーズでも予定されている我が国の途上国（アフリカ、SIDS）支援などについて発言。

○結果：

ロシアからの意見で、決議案の一部がユネスコの勧告は法的拘束力を有しない性質のものであることが分かるように修正され、勧告本文については修正なく採択。

4. ユネスコ総会サイドイベント

○2020年微生物学のためのカルロス・フィンレイ賞表彰式

ユネスコ総会に合わせ、11月15日に、2020年の受賞者である本田賢也 理化学研究所生命医科学研究センター消化管恒常性研究チームリーダー/慶應義塾大学医学部教授の表彰式が行われた。

本賞は、黄熱病の感染経路を発見したキューバの医師・微生物学者であるカルロス・フィンレイ博士を記念して1976年に設立されたものであり、本田教授は日本人として二人目の受賞（複数の受賞者を出しているのは日本のみ）。

表彰式には、ネイル・ブドウエル事務局長補（自然科学担当）、スポンサーであるキューバ政府から科学技術環境大臣（録画）及びキューバ代表部大使の他、本田教授もオンラインで出席。本田教授からは受賞の言葉を述べられるとともに、過去の受賞者等とのパネルディスカッションにも参加、当該分野の研究の重要性及び若手研究者への激励が述べられた。その後、田口文部科学省国際統括官が代理で賞状を受領し、閉会の挨拶を行った。

5. その他

○主な選挙結果

第41回ユネスコ総会においては、我が国は、執行委員会委員国選挙において当選を果たしたほか、以下の政府間理事会の理事国に選出された。（任期はいずれも2025年ユネスコ総会まで）

- 政府間水文学計画（IHP）政府間理事会
- 人間と生物圏（MAB）計画国際調整理事会

（以上）